

大学院生の出来事への認知的評価とレジリエンスとの相互関係について —トランスアクションル・モデルを基にした検討—

○Deng Sixin (早稲田大学)

小倉正義 (鳴門教育大学)

キーワード：認知的評価, レジリエンス, 相互関係

問題と目的

ストレスにかかるトランスアクションル・モデルでは、先行条件のストレッサー、それに対する認知的評価、コーピング、ストレス反応、再評価という過程が考えられている (Lazarus & Folkman, 1984)。ところで、プレッシャーがかかる出来事と出会う前に、精神的健康と関わる心理的特性や能力を養成することは重要である。多くの研究でレジリエンスと精神的健康との関連が検証されているため (長内・古川, 2004 など), 本研究ではレジリエンスに着目する。レジリエンスの定義や概念に関する見解は多様であるが, 本研究では「人がストレッサーを経験しても心理的な健康状態を維持することと, 陥った不適応状態を一時的なことから乗り越え, 健康状態へ回復していく力や過程」 (小塩・中谷・金子・長峰, 2002; 石毛・無藤, 2005; 齊藤・岡安, 2011) とする。

これまでトランスアクションル・モデルの認知的評価とレジリエンスの経時的な変化に関して検討した研究はほとんどない。人は新たな情報を得ることで再評価を行うため, 認知的評価には変化が生じる可能性があり, この変化はレジリエンスの成長を促す可能性がある。そこで本研究では, ストレスにかかるトランスアクションル・モデルの認知的評価とレジリエンスの経時的な相互関係を検討する。なお, 本研究では大学院生を対象にしたため, 大学院生にとって比較的負荷が高い修士論文の構想発表会をイベントとした。

方 法

調査時期：2018 年 6 月から 7 月に。3 時点での調査を行なった。

調査対象者：X 県内 Y 大学の大学院生 22 名 (男性 5 名, 女性 17 名, 平均年齢 25.81 歳 $\pm$ 7.66) を分析対象とした。研究目的や負担の説明, プライバシー保護など, 倫理的な側面での配慮を本文に行った。

調査内容：①基本属性, ②認知的評価尺度 (三浦・上里, 1999), ③レジリエンス尺度 (鄧, 2016)。

結果と考察

3 回調査の平均年齢 $\pm$ 標準偏差を Table 1 に示した。また, 認知的評価とレジリエンスの双方向の因果関係を含む交差遅延効果モデルの適合度は良好であった ($\chi^2(2) = 1.221, p = .543, n.s., GFI = .981, AGFI = .804, RMR = .002, AIC = 39.221, RMSEA = .000, Figure 1$)。

Table 1 3回調査の調査協力者の平均年齢, そのSDと調査用紙の回収率および有効率

	男性		女性		他		年齢	全体	データ
	M	SD	M	SD	M	SD	無記入	回収率	有効率
Wave 1	22.88 (8)	1.05	25.81 (21)	7.66	24.00 (1)	0	2人	100% (34)	94.12% (32)
Wave 2	23.00 (7)	1.15	26.11 (19)	7.99	0	0	1人	76.47% (26)	100% (26)
Wave 3	22.75 (5)	0.83	26.53 (17)	8.34	0	0	1人	67.65% (23)	95.65% (22)

N = 34

データ有効率: (回収した数 - データ欠損ありの数) / 回収した数

() 内は該当人数

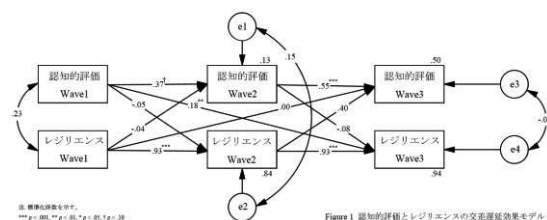


Figure 1 認知的評価とレジリエンスの交差遅延効果モデル

「認知的評価」の Wave 1 から Wave 2 ($\beta = .37, p = .073$), Wave 2 から Wave 3 ($\beta = .55, p < .001$), 「レジリエンス」の Wave 1 から Wave 2 ($\beta = .93, p < .001$), Wave 2 から Wave 3 ($\beta = .93, p < .001$) への係数は高い値を示した。また, 「認知的評価 (Wave 1) $\rightarrow$ レジリエンス (Wave 3)」の係数が有意であり ($\beta = .19, p = .001, p < .01$), 1ヶ月前の「認知的評価」は1ヶ月後の「レジリエンス」に正の影響を及ぼすことが示された。このことから, 1ヶ月前の認知的評価が高いほど, 1ヶ月後のレジリエンスは高い傾向にあるといえる。そのため, ストレッサーとして評価されやすい出来事に対し, 出来事に関する認知的評価が固着される前に支援を行い, 出来事に関する情報の提供や対処法の獲得を支援することでレジリエンスを成長させることが可能だと考える。